

国際交流事後活動ニュース

# MACRO COSM

マクロコズム '99.7

◎特集 第11回「世界青年の船」



vol. 29

(財)青少年国際交流推進センター

## Celebrating Diversity: Spirit of Tomorrow

[1/19] 日本(東京)～ソロモン(ホニアラ)～トンガ(ヌクアロファ)～バペーテ(タヒチ)～  
エクアドル(グアヤキル)～メキシコ(アカプルコ)～ホノルル(アメリカ)～日本(東京) [3/16]



◀ 「にっぽん丸」のデッキで全員集合！水平線を体感して

「世界青年の船」は、北・中・南米方面と南西アジア・アフリカ等方面を隔年で訪問しています。第11回は、前者のコースでした。外国青年は、1月11日に来日して日本でのプログラムを体験した後、出発前研修で日本青年と合流しました。1月19日、「にっぽん丸」は、日本と訪問地である4か国を含む13か国の青年約300名を乗せて東京港を出航しました。今年の船内プログラムの特色は、国連大学との連携を密にして、講師にも国連本部からの方を招くなど国際平和への理解に力点が置かれました。



◀ 外国青年の歓迎レセプションで青年と懇談する太田総務庁長官

13か国の我らがナショナル・リーダー(NL)  
▼ 勢揃い(団長を囲んで)



寄港地活動

ソロモン

NLの表敬訪問 ▶

▼ 到着歓迎式でのパフォーマンス



▲ 三種類できた太鼓チームの一つが演奏披露。暑さに負けず迫力の太鼓の音が会場に響き渡り、現地の人々を引きつけていました

トンガ

村の青年たちとの懇談会 ▶



◀ 子供たちとのさりげないふれあい



カトリックの大学訪問。日本語や日本の絵で歓迎の気持ちを表してくれました ▼



エクアドル

▶ スポーツセンターで様々なスポーツを通しての交流



船内活動



毎年恒例になった広島県のメンバーを中心とした自主活動のピースセミナー  
原爆による被害の映像を目の当たりにし、涙を浮かべる外国青年も。ディスカッションや歌も含めて心に残る企画



▲ 国連大学顧問のマリック指導官による国連に関するセミナー



▶ 熱心なグループディスカッション

船内活動の後は、船上活動?!



仲間と汗を流してぶつかり合うのも  
楽しみの一つ  
太陽と潮風を精一杯体を受けて



# ～人生という航海～

三日月大造

(第11回「世界青年の船」参加青年)

今となっては、夢のような58日間でした。  
 きれいな空と海に囲まれて、「にっぽん丸」というこれまたすばらしい一つの空間を、13か国約300名の青年達で共有し、いろいろなテーマについてともに考え、ともに悩み、そして分かり合う。歌、踊り、スポーツ、その他生活習慣等、様々なツールを通じて互いの文化(バックボーン)を体験し、理解し合う。元の生活に戻った今、その一つ一つを思い出す度に胸がじーんと熱くなります。

不安や悩みがなかったわけではありません。乗船前には、航海中の健康や語学力に不安を感じ、乗船中にはPY間のコミュニケーションやグループ運営に悩み、自分の思いや感情を言葉や体でうまく表現できないことにいらだちを覚え、日本に残してきた家族に対するどうしようもない心配に押しつぶされそうになったこともありました。



だからこそ、自分の思いが通じた時の喜び、グループが一つになったとグループ全体が思えた時の楽しさ、そして何より、この期間、家族を含め無事に過ごすことができたことに対する感謝の気持ちはひとしおとなりました。また、こういうプロセスの中で得た友人は、離れていても心が通じ

## ◆ ◆ ◆ 主な内容 ◆ ◆ ◆

第11回「世界青年の船」……………5～8	コンピュータネットワークについて ……13～15
参加青年の感想	青少年国際交流を考える集い ……16
ナショナル・リーダーの感想	全国大会のお知らせ ……19
国際高齢者年記念プログラム……………9～11	第24回青少年国際理解セミナー……………20
手作りの海外派遣事業の実践……………12～13	

〈表紙の説明〉  
 第11回「世界青年の船」  
 フィジーのナショナル・リーダー  
 ～獅子舞に挑戦～

## 第11回世界青年の船

合い、一生つきあっていきたいと思える、本当にかげがえのないものとなっています。

渡辺キャプテンの修了式での言葉が胸に残っています。

「揺れることがあっても、雨が降ることがあっても、航海を続けていけば、きれいな島を見ることができ、イルカの歓迎にも接することができる。忍耐力と勇気を持って人生という航海を続けて下

さい。」

今、航海中に生まれた息子・光太郎の寝顔を見ながら、このお言葉をかみしめています。

今回させて頂いたこのすばらしい経験を、より多くの人に伝えるべく、まずは日常生活というステージで体現しながら、人生という航海を続けていきたいと思えます。

## ～私の「世界青年の船」～

浅見 晶子

(第11回「世界青年の船」参加青年)

第11回世界青年の船のテーマは、“Celebrating Diversity: Spirit of Tomorrow”である。私の世界青年の船は、この2つの言葉で語り尽くすことができるのである。

### “Celebrating Diversity”

私が「世界青年の船」に参加した最大の喜びは、素晴らしい人達に出会えたことである。船上生活を共にし、語り合い、笑い合うたびにこの友の素晴らしさをしみじみと感じていたのである。

そして、より一層感じるためにも、異なった価値観を受け入れられる心の大きさと、個性を見つめていく姿勢を持って挑んだのである。個人一人一人は、様々な経験をし、その経験から構築された価値観によりその人間が存在している。その価値観の共有により、私は幾度も開眼させられる思いをし、感動を味わったのである。その一人一人

が偉大であったことに驚きを覚え、そんな素晴らしい出会いに感謝し、幸せを感じるのである。参加青年一人一人が人間としての存在に満ち溢れた個性の持ち主だったのである。個性そのものが、人間の存在そのものであったことに気づく。

▼ 前列左が筆者



## 自分を知ることによって相手を知る

お互いの個性を共有し、共感を味わう。そのためには自分自身を知らなければならない。この「世界青年の船」は、自分探しの航海でもあった。「自分の存在とは」「自分とはいったい何であるのか」を知るための旅であった。相手の偉大さを十分に知ることができたのも、意外にも自分自身を知ってからだった。個性とは、まず自分自身のことを熟知し、その中で優れたものを引き出し発揮していくことにある。そして、私は自分探しの第一歩として、素直になるように心がけた。素直に感じ、素直に味わう。素直になればなるほど問題意識が高まり、発見をする。そして、その味わいの奥深さに、より一層素直になっている自分があったのである。その中で、私は弱い自分を発見した。今、自分の弱さを知り得たことを幸せに思う。自分が今まで絶対違うと受け入れられなかったものが、実はそれが一番自分自身に近い、自分らしいものであり、それを単に受け止めることができなただけなのである。受け止められた今、とても自分が大好きになった。より一層好きになったのである。これが自分なんだと気づいた時、それが個性となった。個性を表現し出すことにより、自分自身も、そして相手に対しても良い影響を与えることになる。それが人間としての社会のつながりである。

私は、素直になること、そして常に高い問題意識を持つことに努めていた。この自分自身の意志があるからこそ、味わえる貴重な体験があったのである。人間が異なれば別の解釈をし、別の価値観を構築し、個性となる。こうして一人一人の

「世界青年の船」が存在している。その中で、個性と個性とがぶつかり合い、価値観が入り混じり、共有し、一つの「世界青年の船」ができあがった。NIPPON MARU FAMILYの誕生である。

「世界青年の船」の2か月間、私は気づき、味わい、そして感動した。心で感じ、心が動いたのである。気がつけば、涙を流していた自分がいた。より多くの人間と深く関わり、見えない何かでつながっていることに気づく。そのつながりは強いものだ。そして温かいものだ。“Celebrating Diversity”によって私の心はどんどん温かく、大きくなっている。そして、これらを恵んでくれた友に感謝し、そんな素晴らしい友と出会えたことに最大の喜びを感じる。人間の偉大さ、素晴らしさを知れば知るほど、人間の素を知り、全ての存在の祖を知るようになったのである。

私は「世界青年の船」に参加し、大切なものがこの世にはこんなにもあったのだと気づかされた。今まで当たり前のように存在していたものが、実は当たり前でないことを。そして当たり前のことを当たり前により続けることの大切さを教えてくれたのも「世界青年の船」である。

このように「世界青年の船」は、私に大きなものを与えてくれた。しかし、この世の中にはその存在さえも気づいていないものがまだまだたくさんあることを知った。私は、その未知の発見に心を躍らせ、ワクワクする。それが好奇心であると信じている。その未知との遭遇するためにも、今から私は動き出す。そう、明日に向けて。

*“Spirit of Tomorrow”*

## EX-PY（既参加青年）の仲間たちと

坂西 佳子

（第11回「世界青年の船」ナショナル・リーダー）

20歳で乗船した第2回「世界青年の船」から9年、第11回にナショナル・リーダー（NL）として再乗船の機会を頂きました。20代の入口と出口でにっぽん丸に乗船できたことは本当に幸運でした。何よりも「世界青年の船」に応募しなかったらきっとこんなに豊かな人の出会いと体験にあふれた20代ではなかったと思うのです。

第11回のNL14名中の5名が私のように「世界青年の船」というギフトをすでに一度手にした既参加青年でした。これだけ多くの既参加青年のリーダーが乗船したのは、「世界青年の船」初だったのではないのでしょうか。それぞれが、例えばジャーナリストとして、またガールスカウトのリーダーとして活躍しているというようなメンバーでした。「世界青年の船」に乗船した事で立ち止まらず、社会や職場といった場所で活躍し「また船に戻ってきた」そんなメンバーでした。

再乗船のNLについては「船をわかっているという安心感があり信頼できた」という感想もありましたが、その反面、船内のルールとその意味を良く分かっているせいで、つい自国メンバーに厳しく接してしまっただけという事もありましたが、何よりも良かったのは11回PYに、事後活動についての具体的にイメージをもってもらう事ができた点です。11回での船では、事後活動についてディスカッションする時間もたれ、ex-PYとしてNL5名と管理部通訳として参加した2名が、

各自の体験や事後活動でこんなことができるといった具体的な提案をしたのです。（その後のディスカッションを経てIYEOではテーマ別のコンピュータネットワークを企画中だとか、とても楽しみです）

修了式で大利団長がおっしゃった「この修了証書は未来への修了証書」という言葉のとおり、11回生がそれぞれの分野で活躍され、その体験をもってまたいつか船にやってきて欲しいと願っています。ある既参加青年NLからは「次はいっしょにアドバイザーをしよう」と言われました。私自身彼女との約束をいつか果たせるようにこれからも頑張ろうと思っています。



▲ 素晴らしいNLたち



## 第11回「世界青年の船」における 「国際高齢者年」記念世代間交流プログラム ～世代と国籍を越えて～

日本青年国際交流機構事務局長  
大橋 玲子

1999年が国連の「国際高齢者年」ということで、第11回「世界青年の船」（北米・中南米・オセアニア地域12か国と日本の青年計約280名）の日本国内プログラムに、外国青年も含めた参加青年と高齢者の方々との接点を作れないかとの企画がでたのは、昨年夏であった。実施に当たっての協力依頼を受けたときの正直な感想は、「いきなり青年と高齢者の方を会わせてもコミュニケーションを取ることができるのだろうか。」というものであった。

しかし、引き受けたからには成功させたいと色々考えた結果「高齢者といっても、現代においては、社会から引退したような方は意外と少ないのではないか。高齢者社会を迎えての問題点も多いであろうが、せっかく青年との交流の場を作るなら、高齢者の方々から青年が学ぶべき部分や考えさせられる点を示せるような設定にできないだろうか。」との発想にたどり着いた。

この結果、当日のプログラムを2部構成にし、午前中は高齢者対策に尽力されている有識者の方々から基礎知識として必要な部分の講演を4グループに分かれて受け、午後は、6分野8コースに分かれて各施設や活動場所を訪問し、高齢者の方々との交流プログラムを組み入れることとした。

### 活躍する先輩たち

いずれの訪問先でも、素晴らしい歓迎を受けたことは勿論、青年たちもとても素直に高齢者の方々と接することができたのは嬉しい成果であった。講演についても、当初は青年たちがどの程度関心を示してくれるのだろうかと危惧していたのだが、案に相違して非常に熱心であり各講演者を感激させたほどであった。

特に、総務庁高齢社会対策室の浜田参事官の基礎講演は、青年達に共通認識を与えてくれたようで訪問先でも「浜田さんもおっしゃっていたように」と引用されることが度々あったとのことだった。

各訪問先での様子を一部取り上げて紹介すると、東京都が推進している高齢者のボランティア活動であるシルバーガイドの活躍場所の一つとして上野動物園がある。ここでは、高齢者の方が曜日毎にグループが入れ代わり、来園者の案内や説明役を担っているが、当日は81歳の中澤さんがリーダーを務める火曜日班が担当して下さった。パンダやゴリラの説明、子供動物園での動物との交流を含めた園内案内に加えて、パンダやウサギの折り紙を教えて下さるなど日頃の熱心な活動を伺わ

せてくれる対応ぶりであった。懇談の際は、外国青年からもボランティア活動へのやりがいについてなどの質問もでて中身の濃い内容になった。井の頭自然文化園のシルバーガイドの方々も工夫を凝らした対応をして下さった。

また、とげぬき地蔵前商店街では、木崎理事長さんを始めとする商店主の皆さんにご協力をいただいたことは幸いであった。伝統工芸の分野では、江東区在住の著名な石工の67歳になられる新川さんに実演と懇談の組み合わせでご協力いただいた。外国青年から驚くほど多くの質問がでたにもかかわらず丁寧に答えて下さり、終始なごやかな雰囲気であった。

板橋老人ホームでは、入所者の方々が交流会を企画して楽しく過ごさせて下さったばかりでなく、後日に当日の全員での記念写真を訪問した青年全員分焼増しして贈呈下さるという丁寧な対応をいただいた。

## 作ろう！世代間コミュニケーション

今回の企画で特に感じたのは、「世代間のコミュニケーションが無くなっている」と言うが、「できないのではなくてそうした場が少なくなっている」ということではないかということである。家族の単位が小さくなった現代においては、年代の離れた同士が会う場は限られてしまい、互いに伝え合うべきものを伝えられなくなっている。ならば、意識して伝え合う場をつくり出すべきではないか。青年は、年代を越えたコミュニケーションを望んでいないのではなく、そこにある豊かな学ぶべき存在を知らないだけなのかもしれない。

最後に、事業実施に当たりご尽力いただいた総務庁高齢者対策室及び東京いきいきらいふ推進センターを始めとする関係者の皆様に深く感謝申し上げます。



▲ 熱心に聞きいる参加青年



▲ 浜田総務庁高齢社会対策室参事官

## (1) 講演者名及び演題

※基礎講演 浜田総務庁高齢社会対策室参事官

### 〔有識者からの講演〕

〔氏名〕	〔役職〕	〔講演テーマ〕
横田 安宏	(国際長寿センター 理事・事務局長)	「高齢化問題と国際協力」
吉田 成良	(社エイジング総合研究センター 常任理事)	「日本の高齢化社会事情」
若林 健市	(財ダイヤ高齢社会研究財団 参与・主任研究員)	「我が国の高齢社会の到来」
和久井良一	(財さわやか福祉財団 渉外代表)	「ふれあい社会とボランティア活動」

## (2) 交流の訪問先

様々な分野で、多くの高齢者の方々が活躍している。また、高齢化の急速な進展に伴って介護を要する高齢者も増加しつつある。こうした点を踏まえ、多方面から青年と高齢者の交流の場を設定した。

分野	訪問先
福祉	・板橋老人ホーム ・東村山老人ホーム
伝統工芸	・江東区工匠壺番館(石工)
生涯学習	・財モラロジー研究所
ボランティア活動 (東京都シルバーガイド)	・井の頭自然文化園 ・上野動物園
伝統文化	・茶道(裏千家)
余暇	・とげぬき地蔵前商店街



▲ 石工の新川さん

### ▼ 上野動物園



### ▼ 井の頭自然文化園での懇談の様子



## 手作りの海外派遣事業の実践



日本青年国際交流機構副会長  
島根県国際交流青友会会長代理  
小塚 昭郎

(助青少年国際交流推進センター評議員)

### 《経 過》

当会では、海外からの受け入れ事業をきっかけとして独自のスタディツアーを実施してきた。そして今回は、幅広い交流を目的とした事業より専門性のある事業を企画した。

平成4年から8年にかけて、アメリカの中南部諸州（アーカンソー、テネシー、ミシシッピ、ケンタッキー等）から延べ100名を超える教師等が来県し、県では学校訪問やホームステイを中心としたプログラムを提供した。島根県国際交流青友会ではプログラムを運営して、県内の先生方がこの交流に思いの外興味を示されたことや、近年の学校問題の解決のヒントを得るために、この草根の人的資源を生かすべきだと考え、交流プログラムを準備した。そして平成9年、事前調査で3名の会員が渡米し、可能性調査、プログラムの具体化を検討するに至った。

### 《視 点》

プログラム作成に当たって、教育技術の比較ではなくアメリカの教育を作り出している社会的背景を学ぼうとする内容に重きを置いた。具体的には、学校の運営方法、教師・生徒の関わり、自由と規律の使い分け、ハンディキャップ教育の理念

など一市民として関心ある内容とした。そのため団員には教員以外の方にも参加いただいた。また、表面的な視察に終わらず、なるべく子供と交流ができること、1箇所に長く滞在し課業以外の様子も見られること、教師の本音が聞けるチャンスを作ること、州の独自性が強いので複数の州を訪ねること、ホームステイを中心に家庭の姿に触れることなどを意識した。

### 《結 果》

今、旅行を終えて充実感を味わっている。3倍にも届きそうな有能な応募者。選ばれた参加者の周到な事前準備。現地地で予想をはるかに越える懇切な対応。忘れることの出来ないホームステイ。中でも共通体験を元に議論できる仲間を得たことが最高の財産となった。また、教育理念やルールの違いは相互の社会背景、価値観の違いが生み出したもの。取り入れるべきもの、島根の価値を伸ばすべきものとの認識した。



## 《今 後》

プログラムに改善を要する部分はあるが、基本理念を失わず互いに有益な交流を続けたい。今秋には第2回目を実施し、来年はアメリカから先生を招きセミナー等を行なうよう交流を深めたい。

事後活動では、幅広い親善交流と共に専門性を発揮した内容も求められている。

●希望者に事業報告書を実費(1,000円)でお送りします。

〒690-0823

島根県松江市学園2-2-1 くにびきメッセ2階

助しまね国際センター内

島根県国際交流青友会事務局

TEL 0852-31-5056

\*\*\*\*\*

コンピュータによる情報交換は、国際交流の分野においても欠かすことのできないものになってきました。その一方で利用者のモラルが問われます。ここでは、私達に身近になってきているホームページや電子メールなどの意義と活用方法についてもう一度考えてみたいと思います。

## コンピュータネットワークについて

第9回「世界青年の船」参加青年

酒井 昇

(助青少年国際交流推進センター職員)

### ～情報「通」になるには?～

インターネットが持つ圧倒的な情報量、スピード、ネットワークの巨大さを生かして、世界中の人々との交信は容易になった。その巨大な情報網を利用したネットワークの構築は、情報交換の相手を決めることで実現する。それ自体は単純な作業であるが、そのネットワークの効果的な運用の為には、コンピュータについての専門的な知識以上にそれを利用する人間一人一人のモラルが問われる。

情報は「生き物」という言葉を実感できるコンピュータネットワークの世界で、その生き物を扱うにはどうすればよいのだろうか?

### ホームページ ～何を発信するか～

ホームページは情報が蓄積される港のようなものである。ネットサーフィンという言葉が示すように、閲覧者は自分の求める情報を探してホームページを飛び回り、それを繰り返すことで求める情報を集めていく。当たり前だがインターネット

上の情報は受信されることによって意味を持つ。同ジャンルのホームページが数多く存在し、情報に対して平等の場所を提供するインターネットの世界では、そのホームページが持つ情報の質、量、鮮度、独自性によりその価値が決まる。

情報の送信者は旬の情報を仕入れ、加工し、発信するのが役目である。その為には情報の鮮度を見抜いた仕入れを行い、次にその本質を変えることなく対象となる閲覧者向けに（特には分かり易く、時には専門的に）加工し、そして発信する。加えて送信者ならではの独自性ある情報を発信することが求められる。インターネットの世界では同じ情報は必要ないからだ。

情報が簡単に入手出来るインターネットの世界では、閲覧者側にも情報に対しての責任が問われる。近年多発しているインターネットを使った悪質な事件が示すように、閲覧者が受け取った情報をどう処理するかによって、情報は凶器にもなり得るからだ。情報提供者からの情報を鵜呑みにするのではなく、情報の価値を見抜く感覚を身に付けたいものである。

### 電子メール ～白ヤギと黒ヤギ～

友人とのメール交換やメーリングリストからの情報収集の為、メールのチェックを行うのが日課になっている方も多いと思う。私もその一人だが、昨年コンピュータの故障で50日ほど電子メールが使えなくなり、情報に取り残された浦島太郎のような気分を味わったことを覚えている。このよ

うに、電子メールに慣れ親しんだ者がメールなしの生活に戻ることは窮屈この上ない。

電子メールの特徴は情報のスピードであるが、時としてそれが裏目に出ることがある。送信者はメールを送信した時点で受信者に読まれていると思込みがちであり、その後受信者からの反応がない場合、送信者は次第に疑心暗鬼に陥り、「メール届いた？」などと確認の電話をする律儀な方もいると聞く。白ヤギ黒ヤギの歌にもあるように、すれ違いの原因はシステムではなく送受信者にある。電子メールと他の方法を比較し、状況に合わせて手段を使い分ける柔軟性を持ち合わせたいものである。

電子メールにおける問題の一つに、いたずらメールや誹謗・中傷メールの送信がある。顔の見えない交流は時としてこのような悪質な交流をもたらす。原因が人間にある以上、コンピュータにセキュリティを任せるのではなく、メールアドレスをむやみに教えない等、人間の普段の行動によりそのようなトラブル防止する必要があるのではないか。

電子メールは確かに便利だが万能ではない。時にはメール利用以前の自分の姿を思い出すのもいいだろう（それ程不便には感じなかった筈だ）。



## 諸刃の剣 ～ネット上の遠い隣人～

コンピュータネットワークを用いれば確かに高速で大量のデータ通信が行われるが、その便利さの影で忘れられがちなのが、この便利なネットワークが直接の交流の機会を奪う原因になり得ることである。「情報の送受信者」としての距離は縮まるが、人間同士の距離を逆に広げてしまう結果にもなり兼ねない。

コンピュータネットワーク上では外国も隣人も距離は同じである。それによって遠隔地との距離が近づいたという感覚の裏には、近隣地との距離が遠ざかるという感覚が潜んでいることを忘れてはならない。臨機応変にネットワークを使い分ける知恵を身に付ければ、ネットワークの本質である顔を合わせた交流の機会が奪われることなく、交流の機会と形を増やすことになるであろう。

## おわりに ～有能かつ無脳なコンピュータ～

コンピュータに「能力」を与えるのは人間の「脳」である。世間ではコンピュータの長所のみがクローズアップされがちであるが、インターネットによって情報が持つ価値と影響力が計り知れない程大きくなったことに伴い、情報を発信する人間の責任も大きくなってきていることが忘れられがちである。コンピュータは命令された仕事を確実にこなす能力を持つが、その優れた性能は人間の情報に対する責任感の欠如によってトラブルの原因になることは先に述べた通りである。

コンピュータネットワークの導入によってネットワーク全体がそれに移行することなく、ネットワークの主役はいつも人間であることを意識し続ければ、膨大な情報の波に飲み込まれることなく、それを操ることが可能になるのではないだろうか。

どんなに交通手段が発達しても、自分の足で歩くのは楽しい。非効率的に思えるスピードの遅さのおかげで、人間は周囲から様々な情報を、五感を駆使して手に入れることが出来るからだ。国際交流においても同じことが言えるのではないか。

### <日本青年国際交流機構ホームページ一覧>

- ・日本青年国際交流機構本部ホームページ  
<http://www.iic.or.jp/iyeo/>
- ・兵庫県青年国際交流機構ホームページ  
<http://member.nifty.ne.jp/iyeo/>
- ・香川県青年国際交流機構ホームページ  
<http://members.tripod.com/~iyeo/>
- ・海友会（和歌山）ホームページ  
<http://www.vaw.ne.jp/aso/kaiyoukai/>
- ・広島県青年国際交流機構ホームページ  
<http://www.freepage.total.co.jp/iyeohiro/>

ホームページに関するお問い合わせは以下のアドレスまでお願い致します。

[iyeo@iic.or.jp](mailto:iyeo@iic.or.jp) （担当：酒井）

## 北信越ブロック青少年国際交流を考える集い

長野県で開催されたこの大会は、より充実した大会を目指して、前年度大成功に終わった在日外国人との1泊2日の交流事業「Globe Party Love & ピース」を同時開催することにしました。また、公共施設を利用したり、出来る限り手作りでお会場を設営するなどして、参加費を低く抑えると同時に参加型のプログラムを多く取り入れ、楽しみながら国際交流できるように細やかな配慮がされていました。

### 10月3日(土)

- |               |  |
|---------------|--|
| 12:00 ~ 13:45 | 国際交流事業関係者連絡会議                              |
| 13:30 ~ 14:00 | 参加者受付                                      |
| 14:00 ~ 14:30 | 開 会 式      主催者挨拶<br>日程説明                   |
| 14:20 ~ 15:50 | ゲ ー ム (親睦を深めるようなもの)                        |
| 16:00 ~ 17:30 | 講演 「輝いて生きる」 ~ 国際化の時代に向かって ~<br>講師 横内祐一郎 先生 |
| 17:30 ~ 18:10 | 休憩及び仮装の準備                                  |
| 18:10 ~ 18:40 | 帰国報告会 (仮装をして)                              |
| 18:40 ~ 20:00 | 夕食 (イタリア料理) 懇親会                            |
| 20:00 ~ 21:40 | タレントショー (参加者の得意なダンス、歌等の発表)                 |

### 10月4日(日)

- |               |                             |
|---------------|-----------------------------|
| 8:00 ~ 9:00   | 朝 食                         |
| 9:30 ~ 11:30  | 貿易ゲーム (多国間での技術交流や貿易等について学ぶ) |
| 11:30 ~ 12:00 | 閉 会 式                       |
| 12:00 ~ 13:00 | 昼食後に解散                      |

〔感 想〕 (総務庁青少年対策本部の代表として企画専門官の柿本氏が出席しました。)

日本青年国際交流機構会員にとっては、若い息吹が感じられる新鮮なイメージを持って参加できたのではないかと思います。また、「Globe Party Love & ピース」のメンバーにとっては総務庁の国際交流事業の一端を知りうる契機ともなり、双方向のネットワーク拡大の機縁になったと思う。また、外国人留学生も運営のスタッフの一員として加わっているのを拝見して、これがまさしく国際交流のあるべき姿ではなかろうかとの印象を受けた。(柿本 譲)



## 総務庁青少年国際交流事業地方プログラム受入れのお知らせ

### あなたの故郷へ世界の風を！

外国青年にとって、ホームステイや各地での交流プログラムは忘れえぬ思い出となって胸に残るものです。ご自分の地域の受入国に興味のある方、地域で国際交流をしたい方は、積極的に参加して外国青年とともに楽しい思い出を作ってください。

#### 〔今後の地方プログラムの予定〕

##### ○第5回国際青年育成交流事業（招へい）（7月19日～28日）

- ①岩手県〔ブラジル、ブルガリア、トンガ〕
- ②栃木県〔エクアドル、ギリシャ、ロシア〕
- ③滋賀県〔デンマーク、タイ〕
- ④京都府〔フィンランド、ジンバブエ〕
- ⑤島根県〔チリ、フランス、ジョルダン〕

##### ○第12回「世界青年の船」（9月3日～5日）

宮城県、静岡県、石川県、岡山県、徳島県、長崎県

- 招へい国〔オーストラリア、バーレーン、ベルギー、カナダ、エジプト、インド、メキシコ、ノルウェー、ペルー、カタール、セイシェル、南アフリカ、スペイン、タンザニア、トルコ、アラブ首長国連邦（16か国から各10名）〕  
（各県毎に2か国又は3か国のグループで訪問し、ホームステイをします。）

##### ○第5回アジア太平洋青年招へい

和歌山県、山口県、佐賀県、大阪府、北九州市（10月6日～10月11日）

- 招へい国〔オーストラリア、ブルネイ、カンボディア、中国、フィジー、インドネシア、キリバス、韓国、ラオス、マレーシア、マーシャル諸島、モンゴル、ミャンマー、ナウル、ニュー・ジーランド、パラオ、パプア・ニューギニア、フィリピン、シンガポール、ソロモン、タイ、ヴァヌアツ、ヴィエトナム（23か国から各5名）〕  
（各県毎に4か国又は5か国のグループで訪問。）

##### ○第13回日本・韓国青年親善国際交流 山形県、埼玉県、京都市（11月6日～14日）

##### ○第21回日本・中国青年親善国際交流 千葉県、大阪府、沖縄県、神戸市（11月13日～11月25日） （韓国青年約40人、中国青年約30人が各道府県を順番に訪問。）

##### ○第26回「東南アジア青年の船」の地方プログラム（12月11日～13日）

福島県、群馬県、新潟県、山梨県、愛知県、三重県、兵庫県、奈良県、香川県、大分県

- （ASEAN9か国と日本青年の混成グループ約33名が各県を訪問し、ホームステイをします。）

青少年国際交流事後活動推進大会  
 日本青年国際交流機構第15回全国大会岐阜大会  
 第6回青少年国際交流全国フォーラム

**日本の真ん中 あったか岐阜で語り愛おう！**

日 程 平成11年12月4日(土)～5日(日)

宿 泊 岐阜ルネッサンスホテル

〒502-0817 岐阜市長良福光 2695-2

TEL 058-295-3100

記念講演 国際情勢コメンテーター ペマ ギャルボ氏

「異文化コミュニケーション＝他国を知るにはまず自国から」  
 チベット文化研究所所長でもあるペマ先生の視点は深く、広く、そして  
 とても鋭く、この国に住む私達以上に適切です。  
 先生曰く、「反論大いに結構」。内容の濃い講演になるに違いありません。  
 ご期待下さい。

～ 平成11年度青少年国際交流を考える集い開催予定 ～

ブロック名	開催県	開催日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	福島県	11月6日～7日	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	埼玉県	平成12年2月5日～6日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	福井県鯖江市	10月30～31日	新潟・長野・富山・石川・福井
中部	岐阜県岐阜市 (全国大会と同時開催)	12月4日～5日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	兵庫県神戸市	7月3日～4日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	鳥取県西伯郡大山町	7月31日～8月1日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	香川県仲多度郡満濃町	9月11日～12日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	鹿児島県始良郡霧島町	9月11日～12日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

## 日本青年国際交流機構都道府県会長一覧

平成11年6月8日現在

県名	団体名称	会長氏名
北海道 青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島	北海道青年国際交流機構 青森県青年国際交流機構 青年海外派遣岩手県連 宮城青年国際交流機構 秋田県青友会 山形県青年国際交流機構 船と翼の会ふくしま	富樫泰介 木村勝一 小川太一郎 及川留太郎 浅野英樹 佐藤英恵 宗像邦司
茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨	茨城県青年国際交流機構 栃木県青年国際交流機構 群馬青友会 埼玉県青年国際交流機構 千葉県青年国際交流機構 東京都青年国際交流機構 神奈川県青年国際交流機構 山梨県青年国際交流機構	渡辺英明 手塚美保 岡村和代 関根廣次 野村隆紹 高田健二 篠崎浩二 大和田浩二
新潟 富山 石川 福井 長野	新潟県青年国際交流機構 富山県青年国際交流機構 石川県青年国際交流機構 福井県青友会 長野県青年国際交流機構	長谷川吉仁 杉本芳文 宮本剛 齋藤清一 樋口敦子
岐阜 静岡 愛知 三重	岐阜県青年国際交流機構 静岡県青年国際交流機構 愛知県青年国際交流機構 三重県青年国際交流機構	堀場巖 村田由紀 坂井香奈 喜多洋輔
滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	滋賀県青年国際交流機構 京都府青年国際交流機構 大阪府青年国際交流機構 兵庫県青年国際交流機構 奈良県青年国際交流機構 海友会	雨宮美津子 南本明男 松本仁孝 高谷敏也 吉岡克史 橋本雅史
鳥取 岡山 広島 山口	とっとり青友会 鳥取県国際交流青友会 岡山青年国際交流会 広島県青年国際交流機構 山口県青年国際交流機構	河崎忠義 手銭長光 村落木実由 宗田正弘 廣宜之
徳島 香川 愛媛 高知	徳島県青年国際交流機構 香川県青年国際交流機構 愛媛県青年国際交流機構 高知県青年国際交流機構	木島藤一 田中和人 松茂千晶 松茂千晶
福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄	福岡県青年国際交流機構 佐賀県青年国際交流機構 長崎県青年国際交流機構 熊本県青年国際交流機構 大分県青年国際交流機構 宮崎県青年国際交流機構 鹿児島県青年国際交流機構 沖縄県青年国際交流機構	藤永郁智 田島健 末永透 武元雅 安東典 上安敏 吉東聖 喜村正 屋武栄

## 21世紀に向けて日韓の相互理解をどう進めるか

本年度で5回目を迎える「日韓青少年指導者交流事業」において招へいする韓国の代表者の方々と、両国の現在の状況を示し合うとともに、今後の発展的関係を築くためにそれぞれがどのようなことが出来るのか、語り合う場をつくり出します。始めて来日する方も多く、彼らに多様な日本の姿を理解してもらうためにも、多くの方々のご参加をお待ちしています。

日 時：1999年7月31日(土) 13:00～17:00

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター 国際会議室

参加費：無料

主な内容：●全体会：日本と韓国の代表者による国際交流の体験から得たものについて体験発表。  
(同時通訳が入ります。)

●分科会 (グループに分かれて、互いの体験を語りながら日本と韓国の交流のために何ができるのかを語り合います。)

(逐次通訳が入ります。)

\*午前中に、ハンゲルでの簡単な会話や韓国の歌の基礎講座も開催します。詳細については、  
財青少年国際交流推進センター「セミナー係」まで資料をご請求下さい。

申込み方法：財青少年国際交流推進センターの「セミナー係」までFAX又は葉書にてお申込み下さい。宛先は、下欄の財青少年国際交流推進センター事務局へ。

### 編集後記

今年は、総務庁青年国際交流事業40周年にあたります。天皇ご在位10周年とも重なり、各事業で記念プログラムが企画されています。

日本青年の間だけでなく、貴重な外国青年とのネットワークもより大きく育てて、世界の平和に少しでも貢献できたらと思ったりもします。

\*本誌の年間講読をご希望の方は、財青少年国際交流推進センターまで葉書又はFAXにてお申込み下さい。年間講読料は1,500円です。

MACROCOSM (マクロコズム) 7月号 Vol.29 1999年7月1日発行 (隔月発行)

編集：マクロコズム編集委員会

編集協力：総務庁青少年対策本部

発行：財団法人 青少年国際交流推進センター

日本青年国際交流機構

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-35-14

定 価：198円 (本体189円)

TEL 03-3249-0767

印刷所：株式会社 絢文社

FAX 03-3639-2436

TEL 03-3959-3960

e-mail LDP04056@nifty.ne.jp

船内活動 Part II

ナショナルプレゼンテーション

トンガ

▼ トンガ人の誇り、心の優しさを伝えてくれました



▲ 豪華な衣装と華やかな踊りに皆うっとり

メキシコ

ソロモン

発表のために猛練習をしたとのこと

▼ 彼らの明るい歌声は元気をくれました



ベネゼイラ

▼ 軽やかなステップに引き込まれて



## 第11回世界青年の船

### フィナーレへ

別れの時が迫りました。共に過ごした貴重な時を思い出にしていってしまうことなく、大きな財産として育てていきましょう。最終正式訪問国はメキシコ。ここで中南米の外国青年が全て下船しました。



▲ アカブルコのフェアウェルパーティ

◀ ソロモンの青年 Simione とニュージーランドの Sandra が第11回「世界青年の船」の King & Queen に選ばれました



◀ 船上での修了式

管理部の皆さん、お世話になりました  
▼ (管理部室にて)



日本帰港日、日本参加青年に対し国連大学より修了証が授与されました

